



Yasuo Takamoto

高本 泰朗

有限会社シューズミニッシュ 代表取締役社長 靴職人



楽しく歩く人を世界中に増やしたい

「GETA(下駄)」を「Re:(もう一度)」 ＝「Re:getA(リゲッタ)」

靴づくりに真摯に向き合い、ただり着いた一つの答えが「日本製」にこだわった靴。日本古来の履き物である下駄の原理を応用し、現代風にアレンジを加え、機能性とデザイン性を融合して生まれた靴が「Re:getA(リゲッタ)」や、「RegettaCanoe(リゲッタカヌー)」である。こだわりをもつお客様から徐々に人気広がりが、今では多くのお客様からの支持を集めている。

『靴職人』であり続けたい

ころんとした温かみのある形をした靴をつくり出す、靴の「型」の設計や靴全体のデザインを手がける、シューズミニッシュの代表取締役社長『靴職人』である高本泰朗さん。

靴づくりにおいて、全てのもととなる「型」づくりは最も重要な工程である。外形だけでなく、履いた時歩いた時の感覚なども「型」で決まる。経営者として多忙な日々を送る中でも、自ら「型」を削り、よりよい靴の探求を続けている。

「“カッコいい”というイメージがあるかもしれませんが、デザインの仕事は、本当に大変。でも、デザインが形になる瞬間のために、妥協はしたくない。」と話す。

『型』や『デザイン』、その細部にまで、高本さんのこだわりが詰まっている。



「made in 生野」への思い

「職人さんたちがいなければ、自分たちのつくりたい靴はつけれない。」シューズミニッシュの靴は、生野区内の約400名の協力工場の職人さんたちにより、工程ごとに手から手へ、バトンを繋ぐリレーのように、町全体を巡りながらつくり上げられる。

Profile 履く人のことを考えぬいた靴づくり

靴本来の役割を実現する「履き心地・歩き心地」を追求した靴づくりに真摯に向き合う有限会社シューズミニッシュの代表取締役社長 靴職人の高本泰朗さん。会社の代表を務めるとともに、20年以上のキャリアをもつ「靴職人」でもある。累計販売額750万以上の「リゲッタ」シリーズの生みの親だ。靴の設計からデザインまでをこなし、「靴職人」として高い技能を有し、2017年度大阪府優秀技能者表彰「なにわの名工」を受賞している。

また、生まれ育った生野区での靴づくりにより、地域活性化にも大いに尽力している。

所属企業 有限会社 シューズミニッシュ

〒544-0012 大阪市生野区巽西1丁目9-24 TEL: 06-6755-2430 FAX: 06-6752-9788

HP: <https://www.regeta.co.jp/>

「靴づくりで生野区を元気にしたい」との思いから、地域の行事などへも積極的に参加・協力し、2018年には、生野区民ホールめいめいけんの命名権を取得し、「リゲッタIKUNOホール」の名前で、より多くの区民の方々から親しまれる存在となっている。

生野区と世界をつなぐ架け橋に

シューズミニッシュの靴は、中国、台湾、香港や東南アジアを中心に海外でも販売され、世界的にも人気が高く、海外から大阪の店舗に足を運ぶお客様も少なくない。

「夢は世界的に有名なデザイナーになること。世界中から工場見学のために生野区にたくさんの人々が集まるというビジョンを持っています。」

「3年後にアメリカの展示会での出展をめざし、まずは英会話の勉強から始めています。」と明るく話す高本さんは、夢を現実的な将来像として見据えている。



『楽しく歩く人』を増やせるように チャレンジし続けたい。

20代のとき、「くつ」について考えに考えた。靴の構造やデザインのことだけでなく、「なぜ靴を履くのか」ということまで考えた。いきついた答えは、「人の足を壊したくない」「楽しく歩く人を増やしたい」という、履く人を思う靴づくり。「チャレンジし続けることは決して楽ではなかったが、楽しいと思える瞬間がいつか必ずある。一生懸命になりたいと思える仕事が見つかると、きっと人生は楽しい。」靴のこと、会社のこと、地域のこと、新たな挑戦はまだまだ続いている。

